

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600207
法人名	社会福祉法人 ひじり会
事業所名	グループホームさくら館 ユニット名 みのう
所在地	福岡県久留米市田主丸町豊城1751
自己評価作成日	平成23年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月5日	評価結果確定日	平成23年11月7日

グループホームさくら館は耳納連山を一望できる緑と自然豊かな場所にあります。ホーム内は和を基本にした作りであり、居室は全室南向きで明るく広いリビングでは利用者様が自分のペースでゆったりと生活できるよう心む快適な空間となっています。私達が大切にしている思いはさくら館の理念の中にあります。「家庭的で笑顔あふれる暮らしができるよう一人ひとりの個性を尊重し、持たれている力を最大限に活かせるよう支援します」この理念をスタッフ全員で共有し十人十色である今までのライフストーリーと個性を一番に大切にしています。生きている喜びを感じて頂けるよう支援し、個人の楽しみとし利用者様の願い事を聞き計画を立てて少しずつ叶えています。又、共生型事業として年6回の地域交流行事を行い、利用者様が地域と交流できる場を提供し社会参加の継続に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

筑後街道から少し入った閑静な場所に位置する「さくら館」は、広大な敷地とゆとりある生活空間を有し、開放的なリビングからは、耳納連山の日々移り行く様相を眺めることができる。多様な介護事業を展開する法人として、働きやすい職場環境の整備や、質の向上に向けた取り組みが充実している。スケールメリットを活かした様々な活動が行われ、法人全体で、毎月接遇目標の設定と評価が行われる等、個人を尊重した支援となるよう重点的に取り組んでいる。また、ホームとしても、日常の暮らしの中で、心の充足感や機能維持に目を向け、願い事を実現する取り組みや、役割づくり等、生活の質の充実に向けたさりげない支援が行われている。今年度は、久留米市の共生型サービス事業を受託し、入居者の方々と地域住民との交流の場を設定し、地域づくりにも積極的に関わっていくとする福祉拠点としての活動も始まっており、今後の展開が楽しみとなる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が認知症になっても住みなれた地域で尊厳のある生活が送れるようスタッフ全員で考え独自の理念を打ち立てた。常に理念を意識し支援するよう心掛けている。理念の確認として毎日出勤スタッフで唱和している。	法人理念のもとに、職員間で作成された独自の理念を示している。毎日、11時に職員が集まり、入居者の方々の自発的な参加の中、唱和されている。勉強会の中で入居者本位の支援について振り返りや確認を行ったり、法人として、毎月接遇目標を設定し、評価を行う等、理念の具現化につなげる取り組みがある。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共生型事業として年6回地域交流行事を行うよう計画している。節分会、ひな祭り、フリーマーケット、秋祭り、芋堀り、もちつき、さまざまな行事をする中で地域の方々との交流を深め、利用者様の社会参加の継続を図っている。	ホーム便りは回覧板にも掲載され、情報発信を行うとともに、地域の常会にも参加している。また、久留米市の共生型サービス事業を受託しており、地域へのチラシ配布等を行いながら、年6回の地域交流行事を企画し、利用者の方々も参加している。フリーマーケット等の売上金は、東日本大震災の義援金として活用されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加する運営推進会議において「認知症を理解する」という題目で研修報告を行った。又、地域の常会に参加し利用者様の地域との関わりについて説明することができた。これからは地域に向けて認知症サポーターの講習を行いたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の状況や行事、ヒヤリハットの報告をし、意見や提案、要望を頂きサービスの向上に努めている。地域役人の方には地域行事や地域と交流を深めるための提案を頂き地域参加できるよう努めている。	家族代表、区長、民生委員、久留米市担当課職員、包括支援センター職員等の参加により定期開催されている。職員の参加が多いことも特徴的であり、認知症啓発や事例発表を行っている。1年間の議事録を家族へ送付し、情報共有を図っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員、包括支援センター職員に参加して頂き取り組み状況の報告や情報交換を行っている。行政主催の地域密着型サービス交流会へ参加している。	年4回、地域包括支援センターの主催する、地域密着型サービス交流会へ参加している。また、久留米市共生型サービス事業を受託し、地域住民、行政とともに、地域の活性化に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の拘束廃止委員会に参加し常日頃から拘束が行われていないか確認し身体拘束がないよう努めている。拘束の具体的な行為については法人本部の研修会などで勉強会をおこなっている。	法人としての拘束廃止委員会やリスク委員会において、個別の事例をもとに、事業所ごとの検討が行われている。利用者の心の抑制や、ドラックロックにも意識を持ち、職員間での共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待のみならず心理的虐待が行われていないか確認し未然に防ぐよう積極的に取り組んでいる。又利用者様の尊厳を傷つけたり残存能力維持の機会を奪ったりするような取り組みがないか確認している。		

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について定期的に勉強会を行っている。成年後見制度を利用されている方はいないがいつでも対応できるようパンフレットを用意している。	権利擁護に関する制度について、外部研修への参加や運営推進会議中での説明、パンフレットの整備等、必要性の検討や活用に向けた支援が行える体制にある。職員トイレの中にも資料が掲示されており、日常の中で、制度の意義について意識できるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は疑問や不安がないよう重要事項、契約内容を書面で提示しながら納得いくまで説明を行っている。また加算や看取りの同意についても書面をもって説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を入居時に説明している。気軽に不満や苦情を表せるよう意見箱を設置し、何かあったら書いて下さるよう声をかけている。また家族会や面会時などを利用して意見や思いの表出に努めている。	年1回、家族会が開催されている。2ヶ月に1回の通信発行や運営推進会議の議事録を送付する等、情報発信に努めるとともに、意見や要望を表していただけるよう関係作りに努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、ケアカンファレンス等で職員からの提案、意見などを集め利用者本位の運営ができるように努めている。管理者はできる限り現場に居て職員の意見を聞き入れ反映できるようボトムアップの体質づくりに努めている。	ホームとしての定例会議等において、各職員の意見を吸い上げており、レクリエーション時の人員配置の工夫等、実際に業務に反映されている。積極的な提案が活かされるよう、ボトムアップを意識した風通しの良い職場環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は各職員が意欲を持って職務にあたる事ができる状況に応じて面接や会話を通し、心身の健康管理に気を配りそれぞれの個性や適応性の把握に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては広く募集を行い、公正な採用選考を行っている。幅広い年代の職員が利用者に関わることで利用者のホームでの生活に良い影響を与えている。また、職員の自主性を大切に、地域活動や自己研修を積極的に行っている。	法人としての採用となり、常勤職員の比率も高い。職員が交代で運営推進会議へ参加し、事例発表を行ったり、外部研修参加時は出勤扱いとなる等、社会参加やスキルアップへのサポートが行われている。法人としての全体会議や各種委員会活動の内容を共有し、職員の主体的なかかわりを促し、また、福利厚生も充実しており、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は全職員に対し日頃より利用者の尊厳を守ることを教育している。勉強会やカンファレンスでも一人ひとりの尊厳を大切にケアが行われているか確認している。職員に対し、毎年開催される人権の公演会に参加を促している	法人として、事業所として、研修計画の中にも盛り込みながら、様々な視点から人権教育、啓発活動に取り組んでいる。また地域で開催される人権フェスタに、利用者とともに参加している。	

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部にて職員研修会を行っている。月ごとにテーマを設け職員全体のレベルアップに励んでいる。また、新人職員についてはホームでの研修を行いスキルアップに努め外部研修にもできるだけ参加する仕組みを作っている。事業者協議会の勉強会に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所協議会の研修や地域密着型サービス事業所の意見交換会など、特定の職員だけでなく多くの職員が参加できるように割り当てを行い交流を通じてサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を伺いながら少しずつ時間をかけ困っていることや希望などを聴いている。担当ケアマネジャーと職員が連携し、利用者様のニーズに応えられるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合は、ご利用前に必ずホームに来館して頂き説明を行うと共に不安や希望も聴いている。御家族が意見を発しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス利用以外の選択肢も視野に入れ、必要とされるサービス情報が提供できるようケアマネジャー、ソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は介護する人される人に留まらず一緒に生活し協力し支えあう関係でありたいと考えている。家事や買い物、外出、花や野菜作り等を共に行い利用者の知恵や特技を引き出し支えあう関係であるよう努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の家族と協力し一緒に支えていく視点から日頃の利用者の状況をお伝えする共に趣味や特技、生活歴の情報を収集し、その人らしく生活して頂けるよう努めている。また御家族に認知症についての理解を深めていただけるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者様のこれまでの生活歴、趣味などの情報収集を行うと共に住み慣れた地域に出かけたり馴染みの深い場所を尋ねることができるよう支援している。身体の理由で面会に来ることができない御家族の所へ定期的に会うことが出来るようお連れしている。	センター方式も活用しながら、馴染みの関係性の把握に努めている。地域の伝統行事への参加や、散歩の途中で知人宅へ立ち寄りたり、通院先での馴染みの方との交流等、関係性の継続に向けた支援を行っている。	

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者がいないよう外出やレクリエーションへの声かけを行い他者との交流ができるよう促している。コミュニケーションが困難な場合、職員が間に入り会話をつなぎ利用者同士が良い関係でいられるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居契約時に法人の関連施設の説明をするなど、サービス利用終了後の関係が継続していくことを説明し安心していただけるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望される暮らしを会話や生活の中で表現できるよう支援し、ご本人の意向が確認できない場合でも御家族等より情報をとり、利用者本位にケアができるよう検討している。	センター方式を活用し、日常の中で回想法を採り入れられたり、家族や旧知の方の協力も得ながら、情報収集を行っており、ヒアリングからも職員間の情報共有が図られていることが確認できる。把握された情報をもとに、介護計画への反映や、実現に向けた「願い事叶え」等の取り組みへとつなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの人、特技、趣味、これまでの生活スタイル等利用者、御家族から情報を集め出来る限り今までの生活を継続し、その人らしい生活ができるよう努めている。利用前のケアマネージャーやソーシャルワーカーとも連携を図るよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に聴き取りし得た情報だけでは不十分であり利用者や接する中で状況を把握できるよう努めている。センター方式の一部を利用し現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に利用者や御家族の希望を伺い、出来る限り希望に沿えるようなプランを立てている。訪問看護、主治医、職員等の意見を取り入れ反映されるよう計画を作成している。モニタリング時にも利用者本人、御家族の意向を再確認している。	本人、家族の意向をふまえ、各担当者による意見を協議しながら、介護計画を作成している。定期的に丁寧なモニタリングが実施されており、現状確認、及び見直しへとつなげている。介護計画と連動させた役割づくりへの支援では、在宅復帰が実現した事例もある。	本人、家族の役割について、更に具体的な内容を示していくことにより、共有が図りやすく、モニタリングも、より効果的に作用すると思います。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践記録、日常生活の中でのエピソード記録、家族からの相談、職員の気づきなどを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直していけるよう努めている。		

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や御家族の意向を汲み取り個別の対応が取れるように支援している。状況によっては協力医療機関や他事業所との連携を図っている。入院中の洗濯物等や外泊支援、移送サービスなどを行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し利用者の状況を説明し民生委員や地区役員の意見や助言をいただいている。ボランティアも積極的に受け入れている。地域の図書館、公園を利用したり、町民祭りや催しに参加している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院にこだわらず利用者本人や御家族が希望される医療機関を利用して頂いているが緊急時に備えての協力病院の体制についても説明してうえで希望に沿える医療機関を選択していただいている。	希望するかかりつけ医、また、近隣に位置する協力医療機関との密な連携を図り、受診を支援している。受診結果の報告や、必要時には家族に同行してもらおう等、現状の把握と情報共有に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域(協力病院)の訪問看護と連携を図り、些細なことでも相談し助言を受け記録に残しスタッフ間にも伝達している。看護師、スタッフが利用者の健康状態を十分に把握できるよう出来る限りスタッフも看護師に同行しチェックを行うよう心がけている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は医療機関(ソーシャルワーカー)、御家族と密に情報交換を行い早期退院できるよう連携している。また、退院後も医師、看護師に相談し助言を頂きながらケアを行い再発防止に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のありかたについて十分な説明を行い看取りケアの方針に同意を得ると共に、終末期に関する意思確認を書面にて行っている。協力病院と連携し看取りの体制をいつでも取れるようにしている。運営推進会議に於いても看取りについての説明をおこなっている。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、意向確認及び、看取りケアの方針への同意を得ている。センター方式も活用しながら、本人の意向についても共有に努め、希望やニーズへ対応できるよう、体制の整備に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人本部で定期的に行われる緊急時の対応についての研修に参加している。また、勉強会でも講師を招いた。訪問看護師にも急変した場合の対応を相談し助言をもらっている。		

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	月に1回防火訓練を行い定期的に消防署にも来て頂き助言をいただいている。運営推進会議で地域の方に避難の協力の依頼をすると共に場合によっては避難所としても利用して頂くよう声かけしている。災害時マニュアルと緊急連絡網を設けている。	年2回、消防署の協力を得ながら避難訓練を行っている。また、毎月独自の防火訓練も行われており、夜間を想定した連絡網の確認等をシミュレーションしている。これまでに地域消防団の訓練への参加を得たり、また、民生委員との連携を図り、周辺の独居高齢者の方の避難先としての活用も視野に入れている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入り口、会報等に氏名(写真)を記載してよいか確認し了解を得ている。訪室、入浴、排泄等やむをえず入室する場合はプライバシーを損ねる事がないような声かけを心がけている。プライバシーに関わることを大声で話したりすることは慎むよう職員間で注意しあっている。	接遇委員会の設置等、法人全体としての重点的な取り組みがあり、毎月の目標設定と評価が行われている。個別性や尊厳を大切にされた言葉掛けや対応について意識を高めながら、サービスの向上を生活の質の向上につなげるよう取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、日頃から傾聴と納得していただけるような説明を心がけている。又、意思表示の少ない方も可能な限り自己表現できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、特に日課を決めずその日の天候や利用者の希望に沿って少人数もしくは個別に対応できる体制にしている。起床、就寝、食事、入浴時間等個人のペースを大切にしよう心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、本人の好みの服を選んで頂くよう支援している。誰でもお化粧ができるよう準備している。理容、美容室は本人の希望を重視し行きつけの店を利用していただいている。ご自分で訴えられない方もスタッフが注意し定期的に理容、美容室を利用できるよう配慮している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ができるプロセスを重要視し旬野菜の収穫、下ごしらえ、買い物等一人ひとりの能力や好みにあった作業に参加していただくことで食事と会話の広がりを楽しんで頂けるよう支援している。利用者の意見を伺いながらマンネリしないよう改善に努めている。	調理担当職員が配置され、嗜好調査の実施、医師によるメニューのチェック等が行われている。ホームの広大な畑で野菜の生育や収穫を楽しんだり、スーパーへの買い物に職員とともに出掛ける方、また、家庭的な雰囲気づくりについて検討が行われる等、様々な視点から「食」を楽しむためのアプローチが行われている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方のカロリーが増えないよう、おやつを工夫したり、疾患に対応した減塩を行っている。嚥下や咀嚼状態を良く観察し必要に応じて又は希望があれば刻み、とろみ食を提供している。バランスについては本部の管理栄養士に相談している。		

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいを行っている。自力で不十分な場所は歯間ブラシを使用し残渣物を除去している。食事に対するク降りてクオリティー向上するよう必要であれば受信を勧めている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がある利用者に関しては排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握するよう努めている。失敗がないようトイレの声かけ、誘導を行い紙パンツの使用は極力避け布パンツに移行している。	個別の状況やパターンの把握に努め、また、表情や仕草等の個別のサインを見逃さないようにし、プライバシーに配慮しながら声かけや対応を行っている。排泄ケアと周辺症状との関連にも着目し、介護計画の中にも示しながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為運動、水分摂取を促し毎日の排便チェックで排便状況の確認を行っている。便秘傾向の方は訪問看護師、主治医に相談を経て服薬等で対応している。飲み物などに排便を促すオリゴ糖を使用している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日出来るよう準備し個人の希望を尊重しながら毎日あるいは一日おきに入浴を提供している。又、スタッフが湯温の好みを把握し気持ち良く入っていただけるよう努めている。羞恥心、疲労感の配慮として一人ずつ入っていただき出来ない事のみ介助を行っている。希望に応じ、夕方でも入浴できる人員を配置している。	毎日入浴準備を行い、希望や状況に応じた柔軟な対応を行っている。また、時間帯についても、職員配置の工夫により、出来る限りの支援を行っている。温泉施設へ出掛け、職員とともに入浴を楽しむ等の支援も行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為個人の習慣を重視し好きな時間に就寝、起床していただいている。夜間、不眠傾向の方は日中なるべく活動していただき安眠できるよう支援している。利用者の重度化に伴い日中横になれる時間を設けるなど個別の対応を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がスタッフ全員が理解できるように介護記録と共にファイルし、いつでも確認できるようにしている。ファイルには薬の名前、写真、容量、効能、注意事項、副作用が記載されている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活に於いての役割を持っていただくことでいきがいを感じていただき特技や趣味ができる場を提供することで楽しみを持てるよう支援している。楽しみ事のひとつとして「願い事叶え」を行い、計画を立てて取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム さくら館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>可能な限り一日一回外の空気が吸えるよう支援し、外出が困難な方や進んで外出しようとされない方にも個別に戸外で過ごしていただく機会や買い物、ドライブなどに行く機会を設けている。本人の希望に沿うよう場合には御家族に協力を求め、墓参り自宅へ外出できるよう支援している。</p>	<p>広い敷地の中にあり、ウッドデッキや玄関先のベンチ等、外気浴を行いやすい環境を有している。本人の希望に応じて、家族との温泉旅行やお墓参り、外食等、個別の外出を計画し、実現に向けて働きかけを行う「願い事叶え」等の取り組みがある。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持することで安心される利用者がおられ御家族の理解を得て所持していただいている。又入居時にお小遣いをお預かりしている為外出時など自由に使用できるよう支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の利用は御家族のご都合を配慮しながら可能な範囲でご利用いただいている。年賀状や暑中見舞い、贈り物のお礼状などスタッフが支援しながら書いていただいている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や光がないよう常に配慮している。ホール、居室に設置されている湿温度計を確認し換気を行いながら適温、湿度を保てるよう調節している。食事位置や日頃過ごされる場所は本人の意思でほぼ固定されており、馴染んだ場所で落ち着いて過ごされている。季節感を感じていただけるよう利用者と共に季節に応じたレイアウトをしている。</p>	<p>木の温もりのある、ゆとりある広さの共用空間は、天窓からの自然光や、リビングからの耳納連山の眺望が相まって、更に開放感を印象付ける。また、照明器具や各所に配された絵画等、細やかな配慮により潤いある生活空間作りが行われている。ソファや畳スペース、ウッドデッキ、玄関先のベンチ等、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングやダイニングを明確に分けている。ソファやテーブルを多く配置しているので気の合った者同士の小集団をつくりやすい環境になっている。テーブルをわけて配置しているので一人でくつろいで過ごしていただくこともできる。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた物や馴染みのある物を持って来て頂くよう説明し家具や電化製品以外に仏壇や写真等も持ち込まれている居室内での生活が自立できるよう利用者、家族に相談しながらレイアウトを考えている。可能な限りカーテンの色やデザインを選んで頂き、その人らしさが伺えるよう配慮している。</p>	<p>各居室入り口部分には飾り棚が設けられており、家族や職員により、個別の飾り付けが行われている。仏壇や箆笥、家族の写真等が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所を確認できるようトイレと浴室に大きく貼り紙をするなど理解できるよう工夫している。時計、ネームプレート、カレンダー、は利用者の目線に合わせて設置している。季節を感じて頂けるよう利用者と共に季節に応じたレイアウトをしている。</p>		